

2017年度 開発教育指導者研修 授業実践報告

【実践者】

授業者氏名	矢野 淳一	学校名	函南町立東小学校
教科・科目	生活科	対象学年（人数）	2年2組（26名）
実践年月日もしくは期間（時数）	平成29年12月11日～12月19日（4時間）		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：「大きくなった自分のことをふりかえろう」					
2. 教科・領域との関連性： 生活科 主たる内容（9） 自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価の観点を意識して設定）： 自分とアフリカの子どもたちの生活を比べ、誰もが自分と同じように成長しようとしていることが分かると共に、学校へ行くことができないわけや何のために学ぶのかについて考えることを通して、学校で学べることの感謝をもつことができる。 <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】 学校に行くことができない子どもたちの背景やわけを知ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自分と西アフリカの子どもの1日の生活を比べ、自分と同じように生活していることや住む環境によって生活が違ってくることについて考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 学校で学ぶことができることについて理解し、感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。 					
5. 単元の評価規準例	①知識及び技能	自分たちと同じ子どもたちがなぜ学校に行くことができないのか、その理由を知ることができた。			
	②思考力、判断力、表現力等	文字が読めない体験を通して、文字の読み書きができないと生活する上で困ると思うことを考え、プリントに書いて発表することができた。			
	③学びに向かう力、人間性等	学校に行って学ぶことは当たり前のことではなく、多くの人の理解や支えがあって教育が受けられることを理解し、感謝の気持ちをもつことができた。			
6. 単元設定の理由 (児童/生徒観、教材観、指導観)	昨年度入学したばかりのときは、速く勉強をやりたいと言っていた子どもたちだが、2年生となり学習内容で理解することや覚えることが多くなるにつれ、学習することが面倒になっている子どももいる。この単元を通して、学校へ行って学ぶことの意味や目的を考え、学校で学ぶことは当たり前のことではなく、多くの人の理解や支えがあって教育が受けられるということを理解し、感謝の気持ちを持つことができるようになってほしいと願っている。その上で、子どもたちが、入学してからこれまでの2年間の学習や生活を振り返り、自分の成長に気付く中で、自分自身の頑張りを認め、更にこれからの学習や生活への意欲や願いを持つことができるようにしていきたい。				

7. 展開計画（全27時間 本単元はその中の小単元として4時間配当）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	活動	教材 ※:JICA リソース活用は ここに記載
1	「学校がある日の1日の生活を振り返ろう」	<ul style="list-style-type: none"> 自分の1日の生活を振り返り、プリントに日課を書く。 日課が速く書けた子は、日課を見て自分が頑張ってきたことや、もう少し気をつけていきたいことをプリントに書く。 	m u n d i 2015April NO.19 P.6-7 「アイシャちゃんの一日」 プリントは、アイシャちゃんと自分の1日の生活が比べられるようなプリントを作成する。
2	「アフリカの友達との1日の生活を比べてみよう」	<ul style="list-style-type: none"> 自分の1日の生活で頑張っていることをグループの友達に伝え合う。 アフリカで学ぶ子どもの笑顔を見て思ったことを発表する。 アイシャちゃんと自分の1日の生活を比べ、同じところと違うところを見つけてプリントに書く。 アイシャちゃんの頑張っているということを見つけてプリントに書く。 	m u n d i 2015April NO.19 表紙 m u n d i 2015April NO.19 P.6-7 「アイシャちゃんの一日」
3	「世界の友達の頑張っているところを見つけよう」	<ul style="list-style-type: none"> アイシャちゃんの頑張っているところを発表する。 学校に行けなくない子どもたちの人数や場所を教え、なぜ学校に行けないのか考える。 学校に行けない子どもたちの気持ちを想像してプリントに書く。 	学校に行けない世界の子どもたち P.3-6
4 本時	「学校に行けないとどうなるかを考えよう」	<ul style="list-style-type: none"> 読み方が分からない文字で書かれている飲み物を飲み、感想を発表する。 文字が読めなかったり、計算ができなかったりするとどんなことが困るか考える。 学校で学べるようになった人たちの声を聞いて、思ったことを発表する。 自分もこれから頑張っていきたいことをプリントに書く。 	学校に行けない世界の子どもたち P.7-8 J I C A映像教材「10分映像集」【教育】

8. 本時の展開

【本時の目標】文字が読めない体験をした子どもたちが、文字が理解できないと生活する上で困ることを考えることを通して、学校に行き学ぶことの意味に気付くことができる。			
過程・時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (15分)	文字が読めない体験 今日、色々な物が入っているペットボトルを用意しました。 ・えー、何が入っているの。 大丈夫。しっかり説明が書いてあるので、読めば分かります。 ・何が書いてあるか分からない。 ・飲んで大丈夫かな。怖いな。	・難しい言語で説明が書かれているペットボトルを提示する。ペットボトルの水は、アレルギーの子に配慮する。 ・ペットボトルに書かれている文字が見やすいように拡大した画用紙を黒板に掲示する。	・難しい言語で説明が書かれているペットボトル水(グレープ味・リンゴ味・レモン味等) ・紙コップ(配布用) ・ペットボトルに書かれている内容を拡大した画用紙(黒板掲示用)
展開 (15分)	飲む前の気持ちの発表 飲む前は、どんな気持ちだったかな。 ・字が読めなくて怖かった。 ・何が入っているか分からなくて怖かった。 ・飲む前に、においを嗅いで、その後、少しずつ飲んでみた。 文字の読み書きができなくて困ることを考える もし文字が読めなかったり、書けなかったりすると、どんなことが困るかな? ・本や教科書が読めなくなってしまうよ。	・どの子も自分の感じたことをいうことができるように、プリントに書いてから発表できるようにする。 ・グループになって、自分が感じたことを順番に話していく。 ・文字の読み書きができなくて困ることを考えるときは、クラス一斉で話し合っ考えるようにする。	・「学校に行けない世界の子どもたち」P.7-8を活用した自作プリント
まとめ (15分)	教育を受けられるようになってのビデオを視聴する。 学校に行き学ぶことができるようになった人たちのビデオを見て思ったことを発表しよう。 ・多くの人たちの夢が叶ってよかったと思いました。 ・学校に行けるって幸せなんだなと思いました。 ・学校に行けない人たちが、早く行けるようにしたいです。	・「教育を受けられるようになって」のビデオは、テロップの漢字が読めないところが多いので、教員がテロップを同時に読んで子どもたちが理解できるようにする。 ・「教育を受けられるようになって」の感想を書いているとき、机間指導で子どもたちの感想を把握し、数名の子どもの感想を全体で紹介する。	・タブレットPC ・大型テレビ ・JICA映像教材「10分映像集」【教育】3「みんなの学校プロジェクト」に取り組んだ成果(2分4秒)

9. 本時の評価

- ・文字が読めない体験を通して、文字の読み書きができないと生活する上で困ると思うことを考え、プリントに書いて発表することができた。【思考力・判断力・表現力】
- ・学校に行って学ぶことは当たり前のことではなく、多くの人の理解や支えがあって教育が受けられることを理解し、感謝の気持ちをもつことができた。【学びに向かう力・人間力】

10. 学習方法および外部との連携

- ・学習方法として、協同学習で子どもたちが思ったり考えたりしたことをお互いにグループで発表し合えるように時間を設定した。

11. 他教員・学校内等で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・授業構想や授業案を学年内で紹介し、他のクラスでも実践できるようにした。
- ・本授業を他の教員にも参観してもらった。（写真撮影等の協力をしてもらった。）
- ・職員会議で、新学習指導要領の全文に書かれているE S Dの趣旨を説明し、学校での教育課程に取り入れていくことを提案した。
- ・ユニセフ募金の取り組みと結び付け、子どもたちの学習を通して家庭にも国際理解教育について紹介し、協力を呼びかけることができた。